

令和5（2023）年度

運営に関する計画・自己評価

（最終評価）



大阪市立木津中学校

1 学校運営の中期目標

現状と課題

○生徒は落ち着いた状況で学校生活を送っている。全国学力学習状況調査等の結果からも自尊感情や自己有用感の高まりが確認でき、このことがベースとなり今の学校の状況を作り上げている。厳しい生活状況の中ではあるが、授業規律は確立されており規範意識も高い。このような状況は、普段のきめ細かな生徒指導や学校行事・学年行事等の運営が土台となっており、引き続きこの状況を維持しつつ、取り組みを進めていくことが必要である。

○課題としては、基礎学力の定着・基本的生活習慣の確立や家庭学習の定着などがあげられ、さらなる授業改善を行い主体的・対話的に深く学ぶ姿勢を育むとともに、しっかりと家庭と連携しつつ現状を改善していく取り組みが必要である。

○現在本校における生活指導の取り組みについては、生徒や保護者の理解と信頼が得つつスムーズな指導体制が整っている。この現状を維持しつつ丁寧に対応し、いじめや問題行動が発生しないような未然防止の取り組みを今後も教職員と地域関係諸機関で進めていく必要がある。

○支援が必要な家庭環境にある生徒が多く、継続的な支援と保護者も含めて相談しやすい地域関係諸機関との環境の整備やさらなる連携がいる。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和 7 年度の中学生チャレンジテスト・アンケートの結果において「授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を 7 3 % 以上にする。（令和 4 年度 7 2 %）

○令和 7 年度の生徒のアンケートの結果において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目において、肯定的に回答する生徒の割合を、8 0 % 以上になるように維持する。（令和 4 年度 7 8 %）

○令和 7 年度の生徒のアンケートの結果において、「あいさつをきちんとしている」の項目への肯定的な回答の割合を、令和 4 年度の水準（9 5 %）を維持する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和 7 年度の全国学力・学習状況調査における各教科の平均正答率が、全国平均と 1 0 ポイント以上の開きが発生しないようにする。

○令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の全国比 1. 0 1 をめざす。

○生徒や保護者アンケートの結果において、「授業中はまじめに取り組んでいる」の項目への肯定的に回答する生徒の割合を 8 5 % 以上になるように維持する。

○近年、外国からの転入生が多く、日本語日常会話もできない生徒も存在する。これら外国籍生徒の進路が保証できるよう、放課後学習や抜き出し指導を行い基礎基本的な学習能力の定着と日本語能力の向上に努め、1 0 0 % の進路保障をめざす。

【学びを支える教育環境の充実】

- 生徒が授業日において、学習者用端末を1日1回は使用する割合を100%をめざす。ただし、学校行事等ICT活用が適さない日を除く)
- 「学校園における働き方改革推進プラン」における教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（中学校）

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を93%以上にする。（令和4年度92%）
- ・年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

※前年度不登校経だった生徒のうち不登校の状態が改善された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校状態が改善されたとする人数を把握

※改善とは、次の状態の場合をいう。（複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。）

- 1 出席日数の増（学校内外でICT等を活用した学習活動をすることによる出席認定含む）
- 2 ICTの活用による、本人・保護者を学校がつながる回数が増えた
- 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導。相談につながるようになった。または、継続してつながるようになった。

学校園の年度目標

- ・生徒アンケートの結果において、「毎朝登校前に朝食を食べている」の項目への肯定的な回答の割合を、78%以上にする。（令和4年度75%）
- ・生徒アンケートの結果において、「あいさつをきちんとしている」「正しい言葉づかいをするようになっている」の項目への肯定的な回答割合を令和4年度の水準（95%・90%）を維持する。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との話し合いう活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりするすることができますか」に対して、最も効果的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。（令和4年度77%）
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。
- ・大阪市英語力調査におけるCEFRA1レベル相当以上の英語力を有する中学生3年生の割合（4技能）を54%以上にする。
- ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を70%以上にする。（令和4年度63%）

学校園の年度目標

- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の全国比1.01をめざす。
- ・生徒や保護者アンケートの結果において、「授業中はまじめに取り組んでいる」の項目への肯定的に回答する生徒の割合を85%以上になるように維持する。
- ・外国籍生徒の進路が保証できるよう、放課後学習や抜き出し指導を行い基礎基本的な学習能力の定着と日本語能力の向上に努め、100%の進路保障をめざす。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・生徒が授業日において、学習者用端末を1日1回は使用する割合を100%をめざす。ただし、学校行事等ICT活用が適さない日を除く）
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」における教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合が90%以上を継続する。

3 本年度の自己評価結果の総括

- ・「全国学力・学習状況調査」の「生徒質問紙調査」では、「よいところを認めてくれる」について肯定的な回答の割合が90%となり、大阪府及び全国平均を上回った。自尊感情や規範意識についても肯定的な回答が高い割合を示している。また、生徒は落ち着いた環境で学校生活を送ることができており、どの教科の授業においても、私語もほとんどなく安定した状態で受けることができている。同調査の「教科に関する調査」国語、数学、英語において大阪府及び全国平均を下回ったが、国語と数学の対全国比について、令和4年度と比較して、国語は4p、数学は12p改善した。また無回答率は令和4年度と比較して、数学は3.4p改善した。
- ・生徒質問紙からは、本を読む習慣が極端に少ないことがわかる。新聞なども含めた文字に親しむ習慣の定着が必要である。図書館の利用や本の貸し出しをさらに啓発していく必要がある。
- ・不登校や教室に入りにくい生徒に対して個別相談やカウンセリング・家庭訪問を実施するなど丁寧な対応を行っている。また、欠席の続いている生徒に対しては、学習内容を補充するために個別に課題を提供したり、一人一台学習者用端末を活用したつながりを作る取り組みを行っている。しかし、今年度、不登校生徒の比率は前年度より増加しており、次年度に向けて改善策を考えることが急務である。
- ・習熟度別少人数授業をはじめ、補充学習・放課後学習会・中3集中学習会や個別学習指導・分割授業等、個々の状況に応じたきめ細かい指導をさらに継続していく。
- ・朝食の喫食率が年を追うごとに微増傾向となっている。「食」の大切さを指導した成果であるが、さらに喫食率を高めるため、指導方法を改善し家庭と連携して啓発していきたい。
- ・生徒アンケートの「あいさつをきちんとしている」の項目では、肯定的な回答が97%と高水準となっている。このことは、実際に多くの来校者からも称賛をいただきしており、継続していきたい。
- ・中国、韓国・朝鮮、フィリピン等からの来日・外国籍の生徒や保護者が日本語を苦手とする生徒が在籍しており日本語での理解や表現が不得意な生徒が多く、これらの生徒を日本語教室や識字教室への橋渡しをすることや、自分の気持ちを表現できる環境を作り地域関係諸機関との結びつきを構築して日本や将来の生活が安定するよう、全教職員が関わり合いを持って関係づくりをしている。

大阪市立木津中学校 令和5（2023）年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成状況
全市共通目標（小・中学校） <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を93%以上にする。 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。 年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。 	C
学校園の年度目標 <ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケートの結果において、「あいさつをきちんとしている」「正しい言葉づかいをするようにしている」の項目への肯定的な回答割合を、令和4年度の水準（95%・90%）を維持する。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向1 いじめへの対応】 <ul style="list-style-type: none"> 1週間を振り返って、教育相談、懇談、いじめのアンケート調査、相談申告機能を実施する <p>指標 毎週末に「1週間を振り返って」のアンケートを実施し、生徒が1週間どのように過ごしたのかを把握する。あいさつ、言葉遣いについても項目を設定し、規範意識を高める。教育相談と懇談を全学年年2回以上実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒から悩みの相談や、相談申告機能での申し出があれば、随時対応する。 いじめに関するアンケートを年3回以上実施し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努める。 	B
取組内容②【基本的な方向1 児童虐待等への対応】 <ul style="list-style-type: none"> 教職員対象の研修会で生活指導の情報交換会を設け、不登校生徒、虐待の恐れがある生徒の把握、対応策を計画する。また、普段の生活指導の課題を見いだし改善に努める。 関係諸機関と連携をはかる。(月に1回のスクリーニング会議、要対協の開催、警察OBの巡回訪問相談会) <p>指標 月2回以上の教職員の研修会、情報交換会を設け、気になる生徒の実態を把握する。教職員と、生徒との深い信頼関係を維持させるため普段の学校生活から正しいあいさつ、言葉づかい、コミュニケーションの工夫などを実践しているか研修会の中で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> またSCや関係諸機関など、積極的かつ綿密な連携をはかり、生徒が専門的な指導を受けられる体制を整えること、早期での対応が可能になることに努める。 	B
取組内容③【基本的な方向1 安全教育の推進】 <ul style="list-style-type: none"> 情報モラル教育について、教科の学習や外部講師を招きSNSなどの被害から生徒を守る。 <p>指標 年1回以上警察によるスマートフォンの取り扱い、SNS使用上の注意についての講演会を開く。必要であればその都度外部講師を招き、指導に役立てる。コロナ禍で開催できなければ、リーフレットの配布や、各教科の学習、集会の中でSNS上の事例を紹介し、予防策、解決策を中心に情報モラル教育の充実を図る。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①	「1週間を振り返って」を毎週末に実施し、トラブルを未然に防いだり、早期に対応ができた。 「ポジティブ習慣」の期間を設け、声のかけ方についての意識を深めた。また、クラスメイトの良かったところを学級通信を通して返すことで、クラスメイトの良い部分を見ようとする行動に繋がり、良い人間関係の構築ができた。相談申告機能での申し出が5回あり、随時対応した。 教育相談では、生徒の様子を把握し、日々の指導に繋げることができた。
②	きめ細やかな生徒情報交換を行った。そのため、職員が学年を越えて生徒の実態を把握し関わることができた。また、外部と会議を行い、関係諸機関と綿密な連携をはかることで、学外での生徒の家庭状況を知ることができた。課題を残す部分はあるが、連動して対応することができた。
③	浪速警察による非行少年防止教室を開催できた。保護者（新入生）への協力依頼は新入生向けの説明会や入学式で行った。生徒への事前指導は全校集会や学年集会で話をし、事後指導は事案が起きてからにはなるが、その都度丁寧な指導を行った。しかし、SNSが絡む事案は起きているため、引き続き指導を行う。
次年度への改善点	
①	定期的に教育相談等や懇談を行い、アンケートを実施することで生徒が悩み事や困り事を伝えやすくなり、これまで言い出せなかつた大きな事案を発見でき対応に当たることができた。来年度も生徒が相談しやすく話しやすい環境づくりに努め、早期発見、早期解決に繋げる。
②	積極的に関係諸機関と連携を図り、協力できた。自傷行為やOD等を行う生徒への対応に難しさを感じる部分もあったが、会議等で教職員間の生徒情報交換を細かく行い、実態の把握や対応に当たることができた。来年度も学校や生徒の実態に合わせて適宜研修会を開く。
③	SNSが絡む生活指導事案は年々増加している。0にすることは難しくても増加を食い止められるよう、来年度も引き続き外部講師を招いての研修会を行い、教職員のスキルアップを図る。また、家庭と連携して生徒と向き合えるよう、保護者対応の知識も向上させていく。

大阪市立木津中学校 令和5（2023）年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成状況
全市共通目標（小・中学校）	
<ul style="list-style-type: none"> 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。 大阪市英語力調査におけるC E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する中学生3年生の割合（4技能）を54%以上にする。 	B
学校園の年度目標	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒や保護者アンケートの結果において、「授業中はまじめに取り組んでいる」の項目への肯定的に回答する生徒の割合を89%以上になるように維持する。（令和4年度88%） 外国籍生徒の進路が保証できるよう、放課後学習や抜き出し指導を行い基礎基本的な学習能力の定着と日本語能力の向上に努め、100%の進路保障をめざす。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向7 教育ブロックでの教育の推進】	
学びサポーターを活用し、補充学習、放課後学習会、中3集中学習会、夏季休業中の補習などを実施する。	B
指標　・補充学習を5教科中心に月2回実施する。 ・放課後学習会や夏季休業中の学習会への参加率を向上させるとともに中3集中学習会を充実させる。	
取組内容②【基本的な方向4 「主体的・対話的で深い学び」の推進】	
少人数授業を基盤にTTや習熟度別少人数指導など個に応じた指導を充実させ、基礎学力の定着に努める。	B
指標　・相互に授業を参観する機会を年に2回以上開き、共通理解や指導力の向上を図る。	
取組内容③【基本的な方向8 学校図書館の活性化】	
図書館機能・蔵書を充実し、読書習慣の定着を図る。ICT機器を活用し、調べ学習・話し合い活動等の学びを推進する。	B
指標　・図書館を原則毎日開館し、利用者数を増やす。蔵書調査・廃棄・充実を適正に行い、より時期やニーズに適した本を提供する。来年度の全国学力・学習状況調査において、同項目で肯定的な回答の割合を今年度より増加させる。	
取組内容④【基本的な方向7 教員の資質向上】	
指導の方法を工夫・改善し、学習意欲を高めるとともに基礎・基本の学力の定着をめざして、相互授業参観と研究授業を実施する。	B
指標　・年2回以上の相互授業参観と研究授業を実施する。	

取組内容⑤【基本的な方向 2 多文化共生教育の推進】 外国にルーツを持つ生徒が普段の授業で困らないよう、日本語指導や基礎・基本的な学習能力の向上に努める。		B
指標　・海外のルーツを持つ生徒に対して、週1回以上の放課後学習や授業中の抽出指導などを行い、本人が希望する高校に進学ができるよう進路指導を含め、保護者の理解が得られるよう努める。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
①	放課後学習会や夏季休業中の補習は実施できた。また、中3集中学習会は例年通りに実施している。	
②	個に応じた指導を実施し、基礎・基本の定着を図る。学校では集中して授業を受けることができているが、家庭での学習時間が少なく、学習内容が定着していない生徒の対応が課題である。	
③	図書館を原則毎日開館している。また、蔵書の廃棄・発注を順次行っている。施設の整理整頓を行い、一層充実した図書館を目指す。 学校司書も生徒の興味が湧くようなポスター作製や図書館での本の陳列を行っている。	
④	今年度は学力向上支援チーム事業の一環で、若手教員が授業を行い、その授業を他の教員が参観する取組みを実施している。授業後には、スクールアドバイザーとの協議も行っている。また、今後はメンバーを中心とした研修会、さらにはカリキュラムマネジメントの研修を実施予定である。	
⑤	日本語教室や学びサポーター・浪速区日本語サポーター等の協力も得ながら、学校全体として日常生活も含めてサポートすることができるよう取り組んでいる。	
次年度への改善点		
①	全教職員で家庭学習を含め学習習慣を定着させ、基礎学力の向上に努めたい。今後も放課後学習会などの進め方について、学校元気アップ事業の先生方と連携・協力し、学習の機会を増やしたい。	
②	学力向上に向けて、学習に関心・意欲を持って取り組むことができるよう、指導方法の工夫や教材の精選、学習機会の拡充を図る。	
③	次年度に向け、蔵書点検など図書館の整備につとめ利用者の増加につなげていく。 また、全国学力・学習状況調査においても、「読書をまったくしない」の回答の割合を60%以下にする。	
④	基礎・基本の学力の定着や学習意欲の向上のため、教職員相互のさらなる連携を図る。	
⑤	抽出指導による日本語の習得や放課後学習などによる学習補助を行い、より一層過ごしやすい環境をつくることができるように努める。	

大阪市立木津中学校 令和5（2023）年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成状況
全市共通目標（小・中学校） ・年度末の校内調査における「学級の生徒との話し合いう活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も効果的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。（令和4年度77%）	B
学校の年度目標 ・生徒や保護者アンケートの結果において、「相手の気持ちを考えた発言をするようにしている」や「友だちを大切にし、人への思いやりを持っている」の項目への肯定的な回答を令和4年度の水準（93%）を維持する。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向2 道徳教育の推進】 ・道徳教育を推進することを通して、自己の生き方を考え、自他を大切にし、よりよい集団生活を送る基本となる道徳性を養う。	A
指標 ・授業実施後の生徒の感想より、各内容項目についての理解が深まっているか、また実践したい意欲に結びついているかを確認する。	
取組内容②【基本的な方向2 キャリア教育の充実】 ・キャリア教育の充実として、社会情勢に配慮した形で職業講話、職場体験学習等を行い、自らの進路について主体的に考える姿勢を育てられるよう、計画的に進路指導を行う。また、キャリアパスポートにより小学校から系統立てた進路指導ができるように配慮する。	B
指標 ・進路学習実施後の生徒アンケートで、「有意義であった」「毎日の学習が大切だ」という肯定的な回答を75%以上にする。	
取組内容③【基本的な方向2 人権を尊重する教育の推進】 ・日々の教育活動のなかでの人権を尊重した生徒への関わり、また各学年の実態に応じて各人権課題について学習を深めることを通して、人権尊重の学校づくりを進める。	B
指標 ・各学年とも「にんげん」集中実践を終えた後に生徒に対してアンケートを行い、授業に対する満足度や肯定的な評価を指標とする。	
取組内容④【基本的な方向9 地域学校協働活動の推進】 ・小中連携アクションプランに基づき、「なにわ子ども人権文化祭」や「部活動体験」などで小中一貫教育を充実させ、連絡会や情報交換により、連携を密にする。	B
指標 ・年2回以上学校行事で児童生徒の交流を図る。「連絡会」を実施し、教職員との交流を図る。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①	教科書題材を読みながら、生徒たちが自己を振り返り、各内容項目について理解を深めることができた。引き続き残りの内容項目に取り組んでいく。
②	各学年の取組みについて、ほぼ計画通り実施し、生徒のアンケートでも指標を超える肯定的な回答が得られた。加えて1年生から出前授業や進路学習を行い、進路への意識を高める試みを行った。
③	各学年とも計画的に「にんげん」実践を行い、実態に応じた人権学習やなにわ子ども人権文化祭に取り組むことで、生徒たちの人権尊重の精神を育んでいる。
④	「なにわ子ども人権文化祭」「部活動体験」をはじめとする小中連携の充実に努めた。また、小中連絡会、校種間連携研修、日々の児童・生徒情報交換などにより教員間の交流を行った。
次年度への改善点	
①	道徳的心情を授業の中で理解して終わるのではなく、日常生活での実践につながるよう、授業内容を反芻できる機会を増やしたい。具体的に、授業の回数を増やす、感想文を共有するなどを行う。
②	生徒たちが自己の進路に関心を持ち、より主体的に考えることができるよう、3年間を通して体系的に進路学習を行いたい。
③	コロナなど社会の変化に伴い新たに生まれる差別にも早期対応、また未然防止できるよう、学校生活全体を通しての人権教育を今後も推進していく。
④	今後も、小中の学習内容や児童・生徒の生活状況などの情報交換や交流の機会を通して、小中連携の充実を図りたい。「なにわ子ども人権文化祭」など、実施できたものの、引き続きの検討が必要である。

大阪市立木津中学校 令和5（2023）年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A : 目標を上回って達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった

B : 目標どおりに達成した
D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成状況
全市共通目標（小・中学校） ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を70%以上にする。	
学校園の年度目標 ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の全国比1.01をめざす。 ・年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を令和4年度の水準（63%）を維持する。 ・生徒アンケートの結果において、「毎朝登校前に朝食を食べている」の項目への肯定的な回答の割合を、78%以上にする。（令和4年度75%）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向5 体力・運動能力向上のための取組の推進】 ・毎回の体育の授業時間において準備運動を確実に行わせ、本校生徒の体力の向上に向けた取り組みの充実に取り組む。	B
指標 ・全国体力・運動能力、運動習慣調査において、本校生徒の柔軟性が昨年の全国平均との差より男女ともに0.5ポイント詰められるよう準備運動の充実に努める。	
取組内容②【基本的な方向1 健康教育の推進】 ・健康的な生活ができるよう、健康管理の啓発を行うとともに受診率の向上に努める。	
指標 ・保健だよりを中心とした情報発信をおこなう。 ・検診ごとに受診勧告を配付し、未受診の場合は、1学期・2学期に1度ずつ保護者に連絡する。 ・保健委員会を中心とした毎日のこまめな手洗いや消毒液の使用を呼び掛ける。 ・感染症が流行しやすい冬季には、より感染症を予防できるよう教室換気を行い、換気調査を実施する。 ・性教育各学年、年度に1度実施する。	B
取組内容③【基本的な方向2 環境を守る意識の醸成】 ・教員の指導のもと、生徒が主体的に美化活動を推進する。	B
指標 ・毎日の清掃活動とで月一回の特別清掃区域の清掃を行う。 ・環境美化の意識を高めるために、整美委員会による清掃点検活動等を行う。	
取組内容④【基本的な方向1 防災・減災教育の推進】 ・「消防計画」「安全対策マニュアル」に基づき、災害時に備えた訓練を実施する。	B
指標 火災避難訓練（5月）、大阪880万人（地震・津波）訓練（9月）を実施する。	
取組内容⑤【基本的な方向5 食育の推進】 ・生徒の実態を踏まえ、家庭・地域と連携しながら、教育課程に基づいた食育の実践・推進により、心身ともに生徒の育成を図る。	B
指標 ・給食委員が中心となり、食に関する興味・関心を高めるようにする。 ・残菜ゼロをめざし、給食指導の充実を図る。 ・食育通信を年10回発行し、保護者・生徒に対し「食」に関する情報提供を行う。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
①	毎回の授業で、ランニング、ラジオ体操、補強運動、ストレッチを行い、持久力や筋力、柔軟性が高まるよう努めている。また、体育行事に関連させながら体力の向上を促している。
②	保健委員会活動を中心に、こまめな手洗いや消毒液の使用や水分補給や暑さ指数の確認の呼びかけを行うことで、感染拡大予防や熱中症予防の意識を高めることができた。 熱中症での重大事案はなかったが、2学期当初に、2年生のインフルエンザによる学年休業があった。冬季はますます気温と湿度が低くなるため、より一層感染症の拡大防止について保健だよりや委員会活動を中心に情報の発信と啓発を実施していく。
③	全教職員、生徒の協力のもと校内の清掃美化をすすめることができた。校内の美化意識を高めるため集会で清掃点検活動の報告や清掃活動の呼びかけを行い、通常清掃区域に加え特別清掃区域等の大清掃もできるように努めた。 感染症の予防や環境整備のためハンドソープ、トイレの消臭剤の補充をこまめに行っている。
④	「消防計画」「安全対策マニュアル」に基づき、火災避難訓練・中学校の防災訓練（浪速区役所主催）を実施し、迅速、冷静、安全に行動することができた。また、浪速区ハザードマップを配布し、より一層の防災の意識を高めることができた。大阪880万人訓練においては、特に津波に対する防災の意識を高めることができた。
⑤	全教職員のきめ細かい給食指導により、副食はほとんど残食ゼロである。また、給食委員が毎日の献立や、給食カレンダーの一口メモを全校に発信したり、保護者への情報提供の一環で給食だよりの発行を行ったりし、生徒の食に関する興味・関心が高められるよう努めた。今後は各学年に食育の授業を実践していきたい。
次年度への改善点	
①	毎回の授業で基礎的な体力向上に努めたが、忍耐力や粘り強さに欠けるところが目立った。課題に向き合う姿勢を養うため、普段から目的意識を持たせ、努力する習慣をつけさせる必要がある。
②	今年度は昨年度に比べ、インフルエンザの陽性者が増加し、学年休業を行った学年もあり、今後も感染症への迅速な対応が求められる。さらに、感染症予防対策の強化（こまめな手洗い、手指の消毒、換気、マスクの着用、3密を防ぐ、免疫力を高める等）を継続して行う必要がある。また、今後も個々の健康課題に合わせて、保健室の機能を生かした保健室経営を行いながら情報共有や情報交換を行い、校内外での関係職員や関係機関との連携を図る。
③	全教職員、生徒の協力のもと校内の清掃美化をすすめることができた。集会で整美委員が清掃点検の活動報告を行い、他生徒に清掃活動への積極的な協力を呼び掛け、生徒一人一人が校内の環境美化を意識し実践できるように努めた。しかし、せっけんや消臭剤の詰め替え忘れが少し見られたため、日々の清掃活動を丁寧に行うだけでなく、意識的に確認が必要である。
④	今年度、火災避難訓練・中学生の防災訓練・大阪880万人訓練を行うことで、生徒・教職員とも冷静・迅速に避難することができた。また、防災訓練を高めることもできた。次年度も今年度同様に冷静・迅速に避難することができるよう訓練を行うとともに訓練だけでなく防災意識を高める講和を行うなど実施していきたい。
⑤	副食の残食率は低かったものの主食の残食率が高かったため、給食委員会の活動や掲示物等で働きかけを行っていきたい。また、今後も学校給食の重要性や朝食喫食率を向上させるため、家庭での啓発活動も続ける必要がある。

大阪市立木津中学校 令和5（2023）年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準

A : 目標を上回って達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった

B : 目標どおりに達成した
D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年 度 目 標	達成状況
全市共通目標（小・中学校） <ul style="list-style-type: none"> 生徒が授業日において、学習者用端末を1日1回は使用する割合を100%をめざす。ただし、学校行事等ICT活用が適さない日を除く） 「学校園における働き方改革推進プラン」における教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を90%以上を継続する。 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【基本的な方向 6 ICTを活用した教育の推進】 一人一台端末の環境を生かし、個別最適化な学びと協働的な学びの実現に向けた取組の実施	A
指標　・令和5年度末の校内調査の「日々の学校活動の中で学習者端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える生徒の割合を50%にする。（令和4年度29%）	
取組内容②【基本的な方向 7 働き方改革の推進】 「学校園における働き方改革推進プラン」に基づく取組の効果検証	B
指標　・ゆとりの日の設定を月2回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間は2日以上設定する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 教科学習だけでなく、学級活動や総合的な学習の時間、朝学活や終学活で心の天気の入力を高めるなど、一人一台学習者用端末を学校生活のマストアイテムとして活用する。	
② ゆとりの日を設定し、教職員の働き方に関して意識変革を促し、長時間勤務の解消に努めている。休業期間中に学校閉庁日を設定し、教職員が休暇を取りやすい環境を整える。 学校行事や生徒引率を伴う大会や発表会の時など、実態に応じた勤務時間の設定を行っている。	

次年度への改善点	
① 学習者用端末の月間活用率（生徒が一人でも活用している）は100%であるが、日別の活用率は最高80%、最低0.7%であった。 心の天気の入力や学習場面での活用など、学習端末に接する機会を増やし、習慣化をしていきたい。	
② 学校閉庁日を指標通り設定し、週休日の振り替えや年次休暇を効率よく取得できた。ゆとりの日を設定することで、教職員の働き方に関する意識を高めることができた。 生徒数の減少に伴い、教職員の数も減少傾向にある。学校運営業務の精選を行い、業務負担の平均化を図り働きやすい環境を整える。	

大阪市立木津中学校 令和5（2023）年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗を測る指標	達成状況
取組内容【各教科】	
【国語】 生きる力につけるために、読み取る力をつけ、理解したことや考えたことを表現できるようにする。語彙を増やし、読み書きができるような取り組みをする。 ----- 指標 ・漢字の練習やテストを単元ごとに1回は行う。その際に、小学校で学習した漢字も復習させ、自ら発表する力を育てる。	B
【社会】 ただ暗記するのではなく、1つの課題に対して「なぜ」「どのようにしてこうなったのか」を社会的背景から思考できるような授業を実施する。また、丁寧な指導を心がけ、ICTを活用した授業展開を行い、社会がより身近なものであることを理解させる。 ----- 指標 ・チャレンジテストの反省から、アウトプットから復習の時間を繰り返し行うことを目標にする。 ・単元終了後の復習、授業内の復習を徹底し、知識の定着を図る。授業では引き続きペア活動、一斉授業を繰り返し実施し、興味深い授業を実施する。	B
【数学】 数学の基本となる基礎的な計算力を定着させ、数学に興味・関心をもち、自ら進んで学習する態度を養う。 ----- 指標 ・各学年とも週1回の補充時間と朝学習の充実、各定期テスト前に2時間以上は、基礎・基本の演習を繰り返し行う。	B
【理科】 生徒が観察・実験をすることで、生徒の興味関心をひきつける工夫をする。 定期考査前には試験範囲の復習・演習をおこなう。そういう取り組みにより基礎学力の向上につなげる。 ----- 指標 ・実験については、1月に1回以上は取り組む(3年生3学期は除く)。復習・演習は、定期考査の前に3時間以上取り組む。	B

年度目標の達成に向けた取り組み内容、取り組みの進捗を測る指標	達成状況
<p>【音楽】</p> <p>主体的に学びに向かう姿勢を醸成するために、毎回の授業のめあてを提示し、振り返りをさせ、学習の理解の向上につなげる。</p> <p>-----</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に興味関心を持たせる授業を行うため、2種類以上の楽器を演奏する機会を全学年行う。 ・授業での復習や、グループワークで教え合いや意見交換をする授業を学期に3回以上実施する。 	B
<p>【美術】</p> <p>毎回の授業の目標をよりわかりやすく設定し、生徒たちが目標に向かって取組む意欲を高め、それぞれの表現力や技能の向上をより感じられるようにする。</p> <p>-----</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業後にその日の達成を振り返らせることにより、自分の成果を実感させる。作品が完成したら自分の作品について発表したり他の生徒と作品について語り合ったりすることで、創作する自信につながるようにし、意欲が高まるようにする。 	B
<p>【保健】</p> <p>体育活動の基本となる体力の向上をめざし、各種目において技術を向上させる土台作りをする。また、生涯スポーツにつながる授業を展開する。</p> <p>-----</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の最初にトレーニング（腹筋・背筋・腕立て）をおこない、3年次には全員が決められた回数（男子30回・女子20回）をこなせるようにする。 ・各種目の特性に応じてグループでの活動を取り入れ、生徒がお互いにアドバイスし合える環境をつくる。 ・体育委員が中心となり運営する体育行事を2回以上取り入れる。 	B
<p>【技家】</p> <p>生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働きかせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し想像する資質・能力を育成する。</p> <p>-----</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きる力を身につけるために、各学年実習に力を入れ、その結果を2回以上展示や発表させる。 ・班単位での活動やアクティブラーニングを増やし、意見交換させることで改善につなげてい 	B
<p>【英語】</p> <p>4技能統合型の授業実践を通して発信力を高める。また、学習形態や課題を工夫し、表現活動を支える基本的な表現や語彙の定着を図る。</p> <p>-----</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業において、生徒が英語を使って互いに意見を交流する機会を毎時間設ける。 ・各学年、学期に1回以上生徒が自分で調べたり、考えたりしたことをまとめ、発表する機会を設ける。 ・単元ごとに、暗唱テストや語彙・表現の小テストを実施する。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
国語	各単元ごとの漢字プリントを提出させ、定期テスト前に小テストで復習した結果、定期テストでは、読み取りはほとんどできていたが、書き取りの定着に課題が残った。小テストの範囲を狭め、確実に読み書きできる力をつける。1年生で1分間スピーチを行い、各自が自分の思いを精一杯伝えていた。今後も各学年読み取る力や表現力をつける授業を実践していく。
社会	単元終了後やテスト前に自プリを活用することで、どれだけ知識が定着できているかを知ることができた。授業内での復習については、その単元ごとに小出しにしていくことに着手した結果、生徒のなかで復習の重要性が伝わったと感じる。引き続き実践していきたい。 ICTの活用について、2年生でjamboardやTeamsを活用した授業実践ができた。さまざまな意見が自由に表現され、生徒の深い学びにつなげることができた。今後は1, 3年で実践ができるよう努めていきたい。
数学	全学年、T・Tによる支援で授業を実践した。授業中の演習時間を長く設定することや、前時の内容の小テストの実施したり、定期テストの前に学習内容の振り返りを行った結果、やや基礎計算力の向上が見られた。今後も継続して基礎・基本の演習を実践していく。
理科	生物分野では顕微鏡を用いて生物や細胞の観察を行った。物理、化学分野では生徒実験を行い、主体的に学ぶ姿勢や学習に対する興味、関心を育むことができている。引き続き、生徒実験を進めていく。 定期テスト前のみならず、普段の授業の際に問題演習にとりくむ時間をもっている。特に計算問題や作図問題は時間をかけて指導している。
音楽	3年生は2種類以上の楽器を演奏をすることができた。1, 2年生は2学期末から2種類以上の楽器を演奏する機会を作る。 授業での復習や、グループワークで教え合いや意見交換をする授業を3回以上実施することができた。今後も主体的に学びに向かう姿勢を醸成するために引き続き実施する。
美術	毎時間、授業の目標を理解し、各々が制作へ取り組んでいた。今後も授業の目標を理解し、生徒がスムーズに制作へ取り組めるように資料などを活用し、怪我なく制作できるように授業を進めてく。
体育	毎時間の導入で補強運動を行っており、基礎体力向上に励んでいる。 バレーボールの授業では、互いに教えあう場面をつくり、意見を言い合うことができている。また、ゲームのなかでは、チームプレーを心がけた声掛けや、サポートができるよう話し合う場面を毎時間設定し、自分たちで課題解決にむけて意見を出し合えている。
技家	授業では、多くの動画資料や実習を取り入れて体験的な学習を行い、興味・関心を高めることに努めた。作品について、お互いが評価し合い、意見交換も行った。1年生は、作品の構想図・木材加工実習・Wordで木材加工の作品紹介カード制作、調理カード・刺し子のふきん製作・調理実習。2年生は、栽培実験実習・ダイナモチューブラジオ製作・学習端末でSDGsについて調べ学習、エコバック製作。3年生は、LEDを光らすプログラムを作りイルミネーションメッセージ・卒業記念マグカップのデザイン制作、絵本・フェルトのティッシュケースカバー製作で、展示や発表を行った。多くの実習を取り入れて体験的な学習を行い、興味・関心を高めることができている。また、学習端末の活用やグループ学習を取り入れながら生徒同士が助け合いながら実習を行った。
英語	目標として設定した「毎時間」の言語活用には至っていないが、80パーセント程度、生徒が英語を話す機会がある授業を展開できている。その結果、授業時間以外でも英語で話している生徒もあり、授業としての英語ではなく、言語としての英語が定着しつつある。 学期に一度程度、生徒がクラスに自分の意見を共有できる機会をもつことができている。 単元ごとに語彙や表現のテストを実施できている。今後も定期的に小テストを実施し、基礎的な項目の定着をはかりたい。

次年度への改善点	
国語	全学年で漢字の読み書きに力を入れ、小テストを定期的に実施し、基礎学力の定着に取り組んでいる。また、多くの人の前で自分の意見を述べる機会を作り、発言力を養った。学習端末による調べ学習や、映像の使用による視覚的効果を狙った教材の使用や百人一首大会への取り組みなど、今後も生徒の実態に合わせた授業実践に努めていく。
社会	学年に応じた授業方法を展開できた。共通するのは全学年ともTeamsを使って授業を実施し、資料を活用してペア学習を行うことや、Teams内に本時のワークシートを入れて全員で調べていくことを行った。1、2年生ではまとめ学習の際に、与えた課題に生徒が答えたものと生成AIが答えたものを比較し、考えさせる授業も実施できた。ICTに特化できしたことやグループ学習の定着を図ることができたが、来年度以降はより知識の定着に特化した授業の取り組みを実施したい。
数学	3学年でT.Tや習熟度別授業を実施した。ICTの活用や生徒の実態に合わせた細かな支援、テスト前に演習の時間を確保したり、小テストを継続して行うことで知識の定着を図り、計算力の向上が見られた。今後も生徒の実態に合わせた授業展開に取り組む。
理科	実験の実施回数は1か月に1回以上を維持できた。科学分野では1年生では蒸留の実験、2年生では化学反応と質量の規則性を見出す実験、3年生においては記録タイマーを用いた運動の記録から物理運動の規則性を見つける実験などをおこなった。また、日々の授業の中において復習を行う時間を設けるなど、基礎学力の向上に努めた結果、定期テストにおいての得点力の向上などがみられ、一定の効果があったと考えている。次年度では実験の充実だけにとどまらず、生徒が自ら探求心を持って行うことのできる活動を増やしていきたい。
音楽	全学年2種類以上の実技演奏を実施した。授業での復習や、グループワークで教え合いや意見交換をする授業を3回以上実施することができた。今後も主体的に学びに向かう姿勢を醸成するために引き続き取り組む。
美術	毎時間、授業の目標を理解し、各々が制作へ取り組んでいた。今後も授業の目標を理解し、生徒がスムーズに制作へ取り組めるように資料などを活用し、怪我なく制作できるように授業を進めていく。
保育	基礎的な筋力を高めるため、毎時間補強運動を実施した。来年度は環境や教材に応じたトレーニングが必要であると感じた。各種目の特性に応じてグループでの活動を取り入れ、生徒がお互いにアドバイスし合うことができた。体育委員が中心となり体育大会、水泳大会、球技大会を運営した。
技家	見方・考え方を働かせた深い学びをするために、学習用端末やICT機器を活用したり、グループでの意見交換や発表を増やす授業展開や実習内容に取り組む。
英語	毎時間の言語活動に取り組むことができた。その結果、授業時間以外でも英語で話している生徒も一部おり、授業としての英語ではなく、言語としての英語が定着しつつある。また、学期に一度程度、生徒がクラスに自分の意見を共有できる機会をもつことができている。実践的な英語の定着に関しては、単元ごとに語彙や表現のテストを実施しており、基礎的な項目の定着をはかることができた。来年度も、基礎的な英語力の定着を中心に取り組みたい。